愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	教育課程論（幼・小）		
担当者(Instructors)	虎岩 朋加	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

教育課程は子どもたちの豊かな発達を保障するために組織された総合的な教育計画である。本授業ではその意味と運用の理解を図ることを目的とする。 ・教育課程の基本的な意味を学力や学習指導要領等と関連させながら理解する。 ・教育課程の歴史や諸外国の教育事情を把握する。 ・教育課程をめぐる周辺要素として、個性化教育、総合的な学習の時間、教育評価、授業分析等を取り上げてさらに理解を深める。 ・カリキュラム・マネジメントの考え方を理解し、個々の授業づくりから学校全体のカリキュラム・マネジメントに至るまで展望しつつ、教育課程の具体的な計画及び遂行過程を検討する。 なお、本授業は講義形式で行うが、グループ活動や話し合いを随時取り入れて、アクティブラーニングの視点から、学習活動の活性化を図る。 リモート授業（オンデマンド）を活用して、授業進捗に支障が出ないようにする。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	本授業は講義形式で行うが、グループ活動や話し合いを随時取り入れて学習活動の活性化を図る。4回程度リモート授業を実施する予定である。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	教育課程とは何か	カリキュラムと教育課程の関係、教育課程の基準などについて理解する。	□
第2回	カリキュラムの原理１ー教育課程における経験	教育課程立案・編成の背景にある原理の一つである「経験主義」を理解する。	□
第3回	カリキュラムの原理２ー教育課程における系統	教育課程立案・編成の背景にある原理の一つである「系統主義」を理解する	□
第4回	戦後日本の学習指導要領の変遷	時代背景と関連させながら、学習指導要領の変遷とともにその要点を概観する。	□
第5回	諸外国の教育事情	諸外国の学校制度やカリキュラムとの比較の観点から、日本の教育課程の特徴を解き明かす。	□
第6回	社会的に見たカリキュラム	教育課程を編成する過程において働く様々な社会的諸力を批判的に考察する。	□
第7回	カリキュラムと教育環境	教育課程と教育環境が互いにそれぞれを規定しあっているあり方を考察する。	□
第8回	授業の設計と実施（１）ー良い授業とは？経験単元と教材単元ー	良い授業とはどのような要素によって構成されるのか考察し、授業設計をする上での単元という概念を理解する。	□
第9回	授業の設計と実施（２）ー授業設計を導くタイラー原理ー	授業設計を導くタイラー原理を理解し、授業を計画を立てる上で教授者が行う行為の意味を考察する。	□
第10回	教育目標の設定ー資質・能力の観点からー	知識観の変遷、それに基づく教育目標の設定を考察する。	□
第11回	学習指導要領解説（１）ー社会に開かれたカリキュラムー	平成29・30年改訂学習指導要領が求める「学校全体のカリキュラム・マネジメント」について、「社会に開かれた教育課程」との関連や、その趣旨と目的、内容を概観する。	■
第12回	学習指導要領解説（２）ー教科のカリキュラム・マネジメントー	平成29・30年改訂学習指導要領が求める「教科のカリキュラム・マネジメント」についてその趣旨と目的、内容を概観する。	■
第13回	学習指導要領解説（３）ー主体的で対話的で深い学び	平成29・30年改訂学習指導要領が重視する主要な学習手段である「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」について概説する。	■
第14回	学力と評価	学力とは何か、学力評価のやり方の背景にはどのような知識や学びについての考え方があるのか、ケースに基づき考察する。	□

第15回	教育課程をめぐる諸問題　本授業のまとめ	これまでの授業内容を概観し、教育課程をめぐる諸課題を改めて捉え直す。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

毎回の授業開始時に提示する課題について、授業終了直前に小レポートにまとめ提出する。その課題解答に関連した事後学習を行う（2時間程度）。 事前学習として、次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通す（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題は、授業内で提示する課題についての小レポートと、最終レポートである。小レポートについては、翌週の授業内でコメントする。最終レポートについてはコメントを付して返却する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	学習指導要領等に基づいて各学校で編成される教育課程について、その意義や編成方法について習得するとともに、幼稚園、小学校の実情に応じてカリキュラム・メネジメントを行う意義と方法について理解することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	教育課程をどうつくり、具体化していくかを思考して自分の考えを豊かに表現し、よりよい方法を選択する判断力を身に付けることができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	学校や園の一員として教育課程について考え、実践することを想定し、学校や園で主体的協働的に関わることができる幅広い人間性を体得することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
40%				60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の課題小レポートと授業への貢献（質問や意見）（60%）と筆記試験（40%）で総合的に評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	よくわかる教育課程（やわらかアカデミズム・（わかる）シリーズ）」 田中耕治編、ミネルヴァ書房	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示　文部科学省）	
2	「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示，文部科学省）	
3		
4		
5		